

「広島型MaaS推進事業」の実施状況について

1 要旨・目的

「広島型MaaS推進事業」における調査事業及び総合事業の実施状況について、報告する。

調査事業：地域において検討会を設置し、MaaSの社会実装に向けた計画を作成
総合事業：MaaSの社会実装に向けた計画を基に実証実験を実施。自市町の交通計画に位置付けるとともに、県内に展開できるモデルを構築

2 現状・背景

中山間地域等の地域公共交通等の利便性と持続可能性の向上を図ることを目的として、交通事業者・利用者・受益者（商業施設等）が主体的に連携し、デジタル技術を活用しながら、交通と生活サービスをひとつのサービスとして提供する「広島型MaaS推進事業」を創設して取組を進めており、今回、調査事業及び総合事業について採択を行った。

3 概要

(1) 対象者

中山間地域を有する県内市町（調査事業においては地域団体も可）

(2) 事業内容（実施内容）

調査事業及び総合事業について、市町から提出された申請について、県内展開のモデル化への寄与度などを審査し、次のとおり採択した。

区分	実施市町	事業内容	
調査事業	安芸太田町	検討事項	○タクシーを公共交通として位置づけ、交通弱者や移動支援の必要な方への利便性向上を検討 ・定額タクシーの導入検討、マイナンバーカードと紐づけた「ペアカード」の検証⇒上記の実証を念頭に本年度 MaaS 社会実装計画を作成
		検証内容	○路線バス・デマンド交通・タクシーのベストミックスな交通体系のあり方検証 ・定額タクシー導入による利用者増(利用者当たりコスト削減) ・公共交通モードの全体最適化による行政負担削減 ・ペアカードを使った移動データの分析
総合事業	庄原市	検討事項	○路線バスのセミデマンドバス・タクシーへの転換と商業施設との連携による利用促進について検討 ・予約制 AI デマンドバス・タクシーの試験運行 ・定額制運賃の導入 ・庄原市独自キャッシュレス決済カード(ほろか等)との連携
		検証内容	○デマンドバス導入による高齢者の利用状況の改善及び商業施設等との連携による公共交通の利用促進等について検証 ・デマンドバス導入による運行効率化・ラストワンマイル問題の解消 ・定額性、地域の決済カード連携による利用促進

(3) スケジュール

令和3年10月 安芸太田町：実証実験開始（定額タクシーの一部実証実験）（～3月）

令和3年11月 庄原市：実証実験開始（～1月）

令和4年1月 安芸太田町：MaaS社会実装計画作成（～3月）

庄原市：実験結果の検証及び交通計画の見直し検討

(4) 予算（国庫・単県）

14百万円（単県）[※調査事業（1市町）2百万円 総合事業（1市町）10百万円]

※調査事業の1市町については現在調整中